

# 特定非営利活動法人 きずなメール・プロジェクト 2020年度 事業報告



## 2020年度 活動実績

## トラックレコード 2021年3月末日時点

### 累計登録者数

22万1277人  
(前年比17.3%増)

## アクティブユーザー (配信中)

**4万2573人**  
(前年比6.4%減)

### 事業採用自治体数

31 自治体

## 01 2020年度は新型コロナウイルスの緊急事態宣言から始まりました。

2020年度は新型コロナウイルスの緊急事態宣言から始まりましたが、きずなメールは変わることなく子育て家庭にメッセージを届け続けました。自治体からは、緊急時の「月日指定メッセージを送りたい」との要望が多数あり、団体負担で対応。「平時からのゆるやかなつながり」が活きました。事業開始は東京都多摩市（LINE）、北海道札幌市（アプリ）、山梨県韮崎市（メール）、千葉県富津市（LINE）の4自治体でした。

## 02 「きずなメール やさしい日本語版」 クラウドファンディングに挑戦し224万円を調達!

理事会における太田理事の発案から始まったきずなメールの「やさしい日本語」化。資金は、団体初のクラウドファンディングで約 224 万円を調達。2021 年度の 1 年間をかけて、翻訳作業を実施します。リリースの目標は 2022 年度 3 月。乞うご期待ください！



**03** 団体として「子どもの権利条約」へのフォーカスを明確化。

団体として、国連「子どもの権利条約」を拠り所にすることを明確化しました。具体的には、団体の事業と活動は「子どもの最善の利益」の実現のための養育者支援、間接支援であること、これを仕様書に組み

込んでいくことなどです。関連の勉強会を3回開催しました。主旨に賛同してくださった企業と「子どもの育ちを支える連携協定」も締結しました。



### ■厚生労働省 第9回健康寿命をのばそう! アワード優良賞受賞!



団体の「きずなメール事業」が  
第9回健康寿命をのばそう!アワード<母子保健分野>厚生労働省  
子ども家庭局長賞団体部門優良賞  
を受賞しました。過去10年間の活動を評価していただいた形です。

#### ■ きずなメール・サポーターの募集を開始



団体のファンドレイジング力のアップのため、9月から、きずなメール・サポーターの募集を開始しました。

将来的には、きずなメールを読み終えた「きずなメール卒業生」の皆さんにも参加を呼びかけていきます。

# 決算情報

事業収入の大きな柱は、今期も自治体でのきずなメール配信事業です。補助金や助成金に頼る割合を少なくし、職員の雇用を確保しながら継続的かつ組織的に社会課題に取り組んでいます。

## メディア掲載

- 2020年 12月 東京新聞に「孤立防ぐ「やさしい日本語」外国人子育てママに支援メール」の記事掲載  
2020年 12月 ウェブサイト「NPO CROSS」に「弱いきずなを大切にする／育児の不安にテキストメッセージで寄り添う」の記事掲載

## 事業報告に寄せて

### 10年目のステートメント

※団体ウェブサイト掲載分からの抜粋要約。

#### ①「孤育て」から「子育ち」へ

きずなメール・プロジェクトは設立時から「孤育て予防」を Mission としてきました。10 年経った今、「孤育て予防」の Mission は保ちながらも、一歩進んだ Mission を考え始めるべきではないか。こう考えたときに出会ったのが、「子育ち」という言葉でした。

「子育て」という言葉は、「保護対象としての子ども」のイメージ。ここには「子どもを保護して、健康に、正しく、賢く育てなければならない」「母親は愛情深く子どもに接しなければならない」という無言の要請があり、親たちは委縮しています。実際に僕らにできるのは、子ども自身の「育つ力」を支える、応援する、環境を整える、くらいではないでしょうか。

「子育て」=保護対象としての子ども=大人が子どもを守り導く

「子育ち」=権利主体としての子ども=大人は子どもの「育ち」を支える

「子どもの最善の利益」(the best interests of the child)を考慮する意味も込めて、「子育て」から「子育ち」へと、意識を少しずつ変化させてもよいのではと考えています。

#### ②参加と協力

時間軸を横に斬った視点。きずなメール・プロジェクトは事業性を重視するため有給職員を中心に事業拡大をめざして展開してきました。ですが非営利組織には「参加と協力」というスピリットがあります。10 年を経た今、これを力強く推進していきます。

その一つの現れが、今年から始めた「サポーター制度」と「寄付」の募集です。法律面から「参加と協力」を後押しする「認定 NPO 法人」の法人格取得にも挑戦します。

#### ③ゴーイング・コンサーン (going concern)

過去から未来へ、時間軸を縦に切った視点です。非営利組織は「課題解決型」「価値創造型」に分けられます。きずなメール・プロジェクトは「価値創造型」です。

企業の財務諸表が、継続を前提に作られる原則を「ゴーイング・コンサーン」といいます。働く人の生活を担っているなら、止めるわけにはいかない。価値創造型の NPO にも当てはまります。継続について考えることは、「きずなメール・プロジェクトが生み出した価値や文化を、今いる僕らが、これから来てくれた人々にどう受け渡していくか」を問うことにな

ります。10 年目を機に、この問い合わせ正面に出していく。

\* \* \*

期待が大きい AI も、ソースコードは英語と記号という「言葉と文字」で書かれています。僕らは「言葉と文字」のおかげで過去を知り未来を示し、今もあなたにこれを読んでもらうことができます。団体設立時からの長期目標は、

・「きずなメール」のような取り組みが、一般化すること／標準化すること。

・海外でも役立つこと。

これは今も変わりません。その上で、僕は想像します。僕らより後から生まれた人々が、その人らしい形の家族を築き、養育者になる下支えに「きずなメール」が活用されることを。アラビア語や中国語の「kizunamail」を作り、さらにその後に生まれた人がそれを読む光景を。それは、新しい命の誕生に対し、社会全体から「おめでとう」の言葉があふれる世界であるはずです。地球の隅々までこんな社会になるよう、自分たちができるところから、一緒にやっていきましょう。

2020/11/3 大島由起雄

### コロナ緊急事態宣言から始まった10年目

団体を設立したのが 2010 年、法人化が 2011 年。今年で 10 期目を迎えることができました。ここまで団体を支え、見守ってくださった皆さんに感謝申し上げます。

「節目の年ではあるものの、あまり気負わずにいこう。」

そんな気持ちだった 3 月、最初の緊急事態宣言が出た日を境に、東京では、保育園は休園や登園自粛、仕事も在宅勤務となりました。

あまりの事態に緊張の日々が続きました。乳幼児がいるスタッフは、「子どもと過ごしながら、なんとかパソコンに向かう」

のが 1 か月、2 か月と続きました。配信事業自体はコロナの影響を受けにくかったという幸運もありますが、それでも 1 日も途切れることなく配信できたのは、スタッフみなが大変ながらも、それぞれの役割を果たしてくれたからだと感じています。また、原稿監修の医師、きずなメール導入自治体の子育て支援担当や母子保健担当の方々とのやりとりで、医療従事者や行政職員がいかにコロナ対応に献身的に取り組まっているのかを知ることができました。

「三密回避」「巣ごもり育児」の中で、「きずなメール」原

稿がどのように受け止められるのか。実際、読者アンケートに集まった自由記述には、「孤独感」「巣ごもり育児が続くことの不安」を訴える記述が目立ち、毎日定期的に届くメッセージがありがたかったという声もあれば、配信内容の更なる工夫を求める声もありました。

読者から届く声をきずなメール事業に反映させる。コンテンツ担当として、これまで以上のこの意識をもって取り組んでまいります。

松本 ややこ



特定非営利活動法人  
**きずなメール・プロジェクト**

きずなメール・プロジェクトは、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



目標5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う



目標8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

